

糖尿病により心臓血管イベント発生が 12 年早まる

新たに 2 型糖尿病と診断された患者の心臓血管病リスクに関する最新のデータが適切な予防管理に必要である。そこで本研究では、新たに 2 型糖尿病と診断された患者における性別、年齢別の 10 年間の心臓血管病リスクについて検討した。

2006～2013 年にデンマークで新たに糖尿病と診断された 142,587 例と、性別・年齢を適合させた一般集団 388,410 例を対象に、10 年間の心臓血管病（心筋梗塞・脳卒中・致命的な心臓血管病）のリスクを評価した。結果、一般集団と比べ、2 型糖尿病の患者の 10 年心臓病リスクはすべての年齢層で高く、とくに 40～49 歳で最も高かった（2 型糖尿病群 6.1% 対 一般集団 3.3%、部分分布ハザード比 1.91）。一般集団の男性の 10 年心臓血管病リスクが 5%になったのは 55 歳であったのに対し、2 型糖尿病群の男性では 43 歳と 12 年早かった。女性では、一般集団が 61 歳で 5%に達したのに対し、2 型糖尿病群では 51 歳と 10 年早かった。

したがって、新たに 2 型糖尿病と診断された患者はすべての年齢層で心臓血管病リスクが高く、なかでも 40 代の若い年齢層では発症が 12 年早まることが示された。

出典：Journal of the American College of Cardiology. 2023 Oct 17; 82(16): 1583-1594.